

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和2年6月4日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の学習を中心とした日本語指導の充実の在り方について ・ 既卒生受け入れに伴う学習活動の工夫や教材研究、評価等に関すること <p>II. 広報・相談体制の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村内外を問わず希望者に対する修学機会を提供する効果的な広報手法や相談体制の在り方について ・ 学齢経過者に対しての円滑な受け入れの在り方について <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語指導・カウンセリング・多様な生徒への対応に関する研修について <p>VI. その他夜間中学校における教育活動充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ボランティア等の指導員の活用について ・ 専門的スタッフ活用について ・ 経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動の在り方について ・ 高齢化や遠方から通学する生徒への支援の在り方について
調査研究のねらい	<p>○夜間中学校の存在を知ることは、口コミによることが多く、広く多くの人に知られることとはなっていない。市内外を問わず広く広報活動を行う。</p> <p>○不登校等により学べなかった既卒者の方や日本語力の必要な方に対しての効果的な学習方法や教材研究、評価方法、積極的に受け入れを行うための時期等の在り方を探る。</p> <p>○生徒の背景が多様になり苦慮することが多い。それぞれのケースに対応できるよう研修を計画的に行う。</p> <p>○生徒それぞれの生活の実情に応じた日本語指導の充実を図る。</p> <p>○生徒の生活の実情に応じた日本語指導の充実を図るため個別学習を行い、学習指導のできる方をボランティアとして活用する方法を探る。</p> <p>○国籍が多様で、生活経験や学力がひとり一人異なることから、生活上の悩みが多く対応が難しい場面がある。様々な問題に対し</p>

	<p>ての相談体制の確立に関する人員の配置を志向する。</p> <p>○経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動を支える取り組みを探る。</p> <p>○高齢化や遠方から通学する生徒への支援の方途を探る。</p> <p>○就労等に役立つよう各種検定の受験を推し進める。</p>
調査研究の成果	<p>○コロナによる臨時休校期間中に登校しての学習はできなかったが、スカイプを利用して日本語会話基礎の学習を行った。また、SNSを利用して課題の配布等による配信型の授業をおこなった。</p> <p>○夜間学級の生徒は仕事や子育てをしながらの生徒が多く、夜間学級の通常的时间帯に出席できないケースも多い。そこで、学習時間帯の工夫（15時からの課外授業）を行うことで学習の機会を確保した。</p> <p>○日本語能力の向上のため、生徒の漢字検定の受験に取り組んだ。受験に向けてのプリントを作成するなどのサポートを行い、受験者は全員合格することができた。</p> <p>○日本語検定に合格した生徒もでてきた。</p> <p>○日本語教材の使い方の校内研修をおこなった。また、教員の中には大学に聴講生として学びに行く者もいた。日本語教育を取り巻く状況や課題などについて意見を交わし見識を深めた。研修内容については校内で共有し、夜間学級の運営に生かしている。</p> <p>○夜間中学校の存在を地域に広く知ってもらうため、今年度も文化祭をおこなった。コロナの影響でライブ配信での作文発表をYouTubeでおこない、一定期間配信をした。近隣地域、各種団体の会合などでも広報パンフレットを配付した。文化祭のパンフレットをきっかけとする入学相談が8件あり、夜間中学での学び直しを必要とする人の掘り起こしにも繋がった。</p> <p>○夜間学級での取り組みを広く知ってもらうための文集を作成した。</p> <p>○不登校で形式的に卒業する生徒もいるため、進路の選択肢の一つとして夜間学級を紹介してもらえるようにパンフレットを市内中学校に配布した。入学相談が4件あった。</p> <p>○学習ボランティアの募集を行い3名の希望者が見学に来られた。しかしながら、3名とも教員免許を所持しておらず、ボランティアとしてどこまで教育に関わってもらうべきかという点で学校と希望者の双方の合意が得られず実施には至らなかった。</p> <p>○バスでの校外学習は高齢、足の不自由な生徒が参加しやすく、</p>

<p>また生徒負担がないため、生徒からは好評で、バス内での交流により生徒間・教員間でのコミュニケーションも図ることができ、有意義なものであるが、今年度はコロナの影響で行うことができなかった。校外での学習ではないが、夜間学級生徒を対象にした講演会を開催することで普段の学習と異なる学びの機会を提供することができた。</p>
--